ひと

鎌倉芸術館長に就任した 永井 健一（ながい けんいち）さん

鎌倉芸術館の指定管理者が、4月から鎌倉市芸術文化振興財団に変わるとともに、館長に就任した。神奈川県民ホールや県立音楽堂で培った運営の技能が生きる。

もともと音楽家志望だった。横浜市の生まれ。小学校の高学年から作曲家を目指し、和声学、ピアノソルフェージュと、3、4人の先生から個人レッスンを受けた。

鎌倉学園高校3年の時に、「芸大の作曲科は入学までに5年かかる」と言われ、上智大法学部に進んだ。そこで混声合唱団に誘われ、指揮者になる。

今度は声楽に興味を持ち、個人の先生につく。そうこうするうち大学は8年満期に。親から「本場に行ってこい。諦めがつくだろう」と言われ、イタリア・ミラノの音楽学校に入った。

3年間、声楽やオペラを勉強した。しかし、プロになる人は何びがすごいものがある」と限界を感じ、30歳で帰国した。

ちょうどそのころ、神奈川県が文化施設を財団運営に切り替える動きがあり、神奈川芸術文化財団の専門職員一期生として採用された。

28年間、財団に勤めた。うち24年は県民ホールの事業や企画担当と副館長。最後の4年は音楽堂の館長だった。60歳の定年を前に、鎌倉に来ないかと話があった。

かつて「サントリーショック」という言葉があったという。1986年、東京・赤坂にサントリーホールができたときだ。レセプショニストと呼ばれる案内係、クロークやロビーでのワインやコーヒーのサービス。音楽を聴く前からシティホテル並みのもてなしがあった公立文化施設の関係者には衝撃だった。その後、公立施設もオペラハウスや劇場などへの特化が進み、レセプショニストも標準になった。

鎌倉芸術館は来年30周年を迎えるころのデザインで「いい意味でぜいたくに造られている」という。設計のコンセプトが「庭」で、前庭からロビーに入ると、中庭の竹林が見える。音の響きがいい大ホール、演劇も上演できる小ホールなど、人口十数万人の自治体で「こんな規模の施設を持っていてよいのか」と思うところはない。

近年は公立施設同士の事業連携が進んでいるとい、県の文化施設での経験も発揮できる。

「市民目線で市民の中に。市民が誇りに思える施設であり続けたい」

（文・写真　真田正明）

みる

▼川喜多映画記念館 企画展「追悼山内静夫 松竹大船撮影所物語」 6月12日まで。鎌倉に生き、鎌倉を愛した名プロデューサーを偲び、松竹大船撮影所と映画文化の歩みを辿る。2百円。

▽関連上映 4月5・10日10時半、6・8日14時、8・9日10時半「秋日和」19日10時半、20・22・24日14時「青春残酷物語」19・21・23日14時、24日10時半「夜叉ヶ池」各千円、小中学生5百円。

▽特別イベント4月9日13時半「早春上映＋トーク「映画に吹く里見弴と鎌倉の風」ゲストは小津研究者で同志社女子大学准教授の宮本明子さん。1600円、小中学生8百円。☎23・2500

▼生誕110年 吉田健一展 文學の楽み 4月2日～5月22日。県立神奈川近代文学館。2016年に受贈した資料約5700点の「吉田健一文庫」を中心にその生涯と作品を辿る。7百円。☎045・622・6666

▼北鎌倉古民家ミュージアムの催し

▽おひなさま展（江戸時代を中心に各時代のお雛様）・五月人形展 5月8日まで。

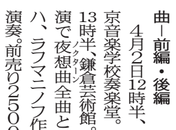
▽樹脂粘土 野の花・野草アート展 4月20日まで。素朴な野の花を樹脂粘土でリアルに再現。5百円。☎25・5641

▼道工房銅版画展 4月12日まで雪ノ下の道ギャラリー。アート作品制作で障害者の就労支援を行っている道工房の作品展。無料。☎23・8772

▼現代美術 草間彌生・李禹煥 他 ギャラリー伸☎24・0811

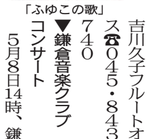
▼ギャラリー翠堂

▽田中隆史展 華と宇宙 4月5日まで。独自開発の釉薬を用いた「華シリーズ」の茶碗など。



▽草野啓利 吹きガラス展 4月8日～6月30日。各無料。一翠堂☎22・3769

▼「同席対面五百生」琅玕居 西松浚波展 4月15～25日雪ノ下のギャラリージ・アース。現代の文人画家・西松浚波さんの傘寿記念展。書画ほか、焼き物、漆器などのコレクションも。無料。☎25・5235



「ふゆこの歌」

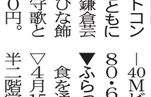
▼映画「咲む」上映会 4月16日14時半、逗子文化プラザ。困難に立ち向かう「クラ者」を通し、手話言語や共生社会とは何かをテーマにした映画。1200円、小中学生5百円。逗葉地域上映会実行委☎090・7894・0388

▼第8回湘南V・Y・Dアート展 4月22日～5月1日藤沢の蔵まえギャラリー。プロ、アマ、障がいの有無の壁を超えた平面、立体表現の展示発表。☎0466・25・9909

▼明明寺寺宝展 5月8日まで光明寺。所蔵の當麻曼荼羅縁起（写本）などを特別展示。3百円。☎22・0603

きく

▼あなたのショパン夜想曲－前編・後編 4月2日12時半、旧東京音楽学校奏楽堂。9日13時半、鎌倉芸術館。2公演で夜想曲全曲とバッハ、ラフマニノフ作品も演奏。前売り2500円。スパシーバ☎090・6568・3853



ピア／川村祥子さん

▼吉川久子フルートコンサート－つる雛とともに 4月9日14時、鎌倉芸術館。ひな人形、ひな飾りゆかりの県の子守歌と日本の曲。4500円。吉川久子フルートオフィス☎045・843・9740

▼鎌倉音楽クラブ 春のコンサート 5月8日14時、鎌倉生涯学習センター。創立76年の音楽クラブ会員らのコンサート。ピアノ、ソプラノ、ヴァイオリン、フルート、ヴァイオリン、室内アンサンブルなど。1500円。齊藤方☎070・3131・5971

さんか

▼鎌倉青年会議所の催し

▽多様性の創り出す未来 4月9日13時、建長寺。共生社会や「鎌倉市共生社会の実現を目指す条例」を実践アートやトークセッションから学び考える。講師は同会永田磨梨奈理事長、松尾崇市長、アーティストの三橋鎌幽さんら。5百円。

▽もの製作ボランティア展 10日10～16時、建長寺。鎌倉での新たな繋がりを構築する為に100団体が参加した「鎌倉もの繋ぎプロジェクト」のパネル展。5百円。☎25・5538

▼鎌倉ユネスコ協会

▽バザー 4月10日10～14時、同会深沢倉庫（深沢中学へ上る手前の信号右折の長屋）。毎月第2日曜（雨天順延）。※献品受付 衣類・書物・雑貨・支援用食糧品。☎44・9830

▽書きそんじハガキでアジア寺子屋支援 未使用切手・プリペイドカードなども可。鎌倉市御成町11－40Mビル3F。☎0800・6002・9498

▼ふらっとカフェ鎌倉 食を通じて多世代交流や子ども2百円、大人5百円。▽20日16～18時ソンベカフェ。テイクアウトのみ。5百円。メールで予約 fiatcafekamakura@gmail.com 渡邉方☎090・5199・1654

▼北鎌倉・台峯の緑をともに ▽山の手入れ 4月16日10時、山ノ内配水池脇。

▽山歩き 17日9時、山ノ内公会堂。北鎌倉の景観を後世に伝える基金・望月方☎45・7420

▼第24回鎌倉 極楽寺・稲村ガ崎アートフェスティバル 4月15～24日極楽寺、稲村ガ崎各所。海と山と歴史とアートをテーマに2年半ぶりに開催。ジャスライブやワークショップ、飲食、虫師巡りなど。実行委☎32・9832

▼逗子の市（雨天中止） 亀岡八幡宮境内。

▽フリーマーケット 4月27日9～15時。雑貨・衣類・手造り品など約20店。※出店者募集。片岡方☎090・5442・3778

▼雑草と育てる土づくり畑づくり 4月22日～11月25日の第4金曜10時。鎌倉中央公園（全8回）公園サポーター養成講座。市内在住・対象者で全日程参加できる各センターへ。

まなぶ

▼経営力を磨く－求められる経験者の資質 4月18日18時半、KOTOWA鎌倉鶴ヶ岡会館。活力あふれる朝礼の実演と倫理研究所法人スーパーバザー・福田康生さんの講演。2千円。県倫理法人会☎04・315・2433

▼玉縄城域文化財ガイド育成講座 4月7日開講、鎌倉寺。9月まで木曜13～15時、全10回。講師は伊藤一美さんら。2千円。玉縄城址まちづくり会議☎45・7411

▼鎌倉の多世代交流事業 市内在住の小学生以上対象。申込は109時から各センターへ。

【名越やすらぎセンター】

▽皆で抹茶を楽しむ教室 4月23日14時。4百円。

▽太極拳体験教室 5月21日10時。無料。☎25・1188

【腰越なごやかセンター】

▽みんなで楽しめるヨガ 4月24日10時半。無料。

▽キッチンハーブの寄せ植え作り 5月15日10時。千円。☎31・0800

【教養センター】

▽運動嫌いのストレッチ教室 4月24日10時。無料。

▽木でおもちゃの車づくり 5月15日10時。5百円。☎32・1221

【今泉さわやかセンター】

▽はじめての囲碁 4月23日10時。▽ピラティスって、なあに 5月22日13時半。各無料。☎45・4611

【玉縄すこやかセンター】

▽米袋でエコバッグ作り 4月23日10時。150円。▽ハーバリウム講座 5月21日10時。千円。☎47・1338

▼点訳者養成講座 5月12日～9月15日毎週木曜18時半、全15回。玉縄青少年会館。点訳ボランティアを始めたい初心者向け講座。2千円。鎌倉市点訳赤十字奉仕団・夜間部主催。木村方☎45・3505

鎌倉女子大学生涯学習センター公開講座

2022年度プログラムは「オンデマンド配信」で開講します。オンデマンド配信期間：6月6日～7月26日（要申込）

コース	2022年度前期開講講座名
A	日本精神史講座：生老病死の思想
B	建築学講座:美しい日本の建築 - 景・建築・庭(1) -
C	宗教学講座：一神教は世界をどう変えたか - 聖地エルサレムの今昔物語 -
D	哲学講座：西洋の正義論の核心にあるもの - 自由と平等の問題を考える -
E	日本文学講座：『万葉集』防人の歌
F	文化学講座:日本の書 - 文字文化を考える - (3)
G	音楽理論講座：目と耳で楽しむ音楽理論
H	美術講座：20世紀アートの魅力(1) - 混沌の世界を表現した画家たち -

詳細・申込みは下記ホームページURLからご確認ください。
◆受講料：1コース各3,500円　◆申込期間：4/15～4/25
◆申込み：ホームページからお申し込みください。
申込み受付後、「受講料納付通知（コンビニ払い）」を送付しますので期限内にお支払いください。受講料納付後の受講キャンセルは原則としてできません。受講に必要なPC／タブレット／スマートフォン等機器類・インターネット接続環境・通信料などの費用は、受講生のご負担となります。
◆申込先・問合せ：鎌倉女子大学生涯学習センター
〒247-8512 鎌倉市大船6－1－3　☎0467・44・2287
https://www.kamakura-u.ac.jp/houjin/index.html

季節の心 ㊺

竹の秋

佐伯 仁

●竹との多彩な交わり

4月、卯月。草木は芽吹き、命あふれる季節。日ごとに春めく日々のなかで待ち焦がれるのは大地から芽吹く筍。

春先の竹は地中の筍を育てるため、養分を懸命に注ぎ込む。その活力は“旬”の味として賞味されるが、それ以後、竹は色褪せる。

その姿を「竹の秋」と呼び、春の季語にしている。因みに竹の新芽が茂る陰暦8月を「竹の春」という。季節を示す日本語は実に多彩。

一方、竹には知を超える霊力がある。

例えば「古事記」には黄泉からの帰路、醜女に投げた竹櫛の呪力で生還出来た神話がある。

「竹取物語」にはかぐや姫が竹から生まれたという話に命を生む竹の神秘を伝えている。

また笹の花の一斉開花も神秘。開花周期は120年、開花を題材に作家九枚笹 ▲

開口健は「パニック」を創作。咲いた花の実は小麦と同質のため、野鼠が襲われ町は大騒動。

「竹の秋」は竹が生まれ成長し、枯れる。その存在感は生きものの在りようをリアリティ豊かに伝えている。

同時に竹の季節が繊細な感性を育んできた背景も見逃せない。

夕方や吹くともなしに竹の秋

心のふる里を行く ㊺

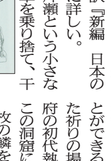
江ノ島の岩屋を巡る巡礼の旅

池田雅之

小泉八雲さんが、バンクーバーから、ハーンが、バンクーバー経由でアメリカからはるばる横浜港に汽船でピニング号で到着したのは1890年の4月4日であった。この頃の船旅であったが、八雲は日本の土を踏んだ喜びを「東洋の第一日目」という作品に克明に記している。

その後、およそ5カ月間、横浜を拠点として、鉄道、人力車、徒歩などを駆使して、横浜、鎌倉、江ノ島、藤沢などのあちこちの寺と神社を巡っている。

日本到着日、冬の1890年4月中旬、八雲は通訳兼案内係の若き真言宗の信徒、真鍋晃を伴って湘南地区のあちこちに出かけている。横浜から大船まで1889年に開通したばかりの横須賀線の汽車に乗り、大船で車を乗り換え、人力車に乗り継ぎ、禅寺の門前に到着した。



小泉八雲著『新編日本の面影Ⅱ』

二人は片瀬という小さな村で大力車を乗り捨て、千鳥寺、建長寺、円応寺を回り、鎌倉大仏、長谷寺を見学した。そして、極楽坂、稲村ガ崎を経て、巡礼の旅の終着点である江ノ島、藤沢へと向かった。この辺の事情は拙訳『新編　日本の面影Ⅱ』に詳しい。

二人は片瀬から江ノ島に渡った。130年前には、今日の立派な弁天橋はなかっていなかった。

江ノ島は絵の島ともいわれていたように、八雲にとって、名状しがたいいくつもの魅力が潜んでいたようだ。八雲は「それは、決して忘れることの出来ない、幾分か霊的な感動を伴った魅力」と表現している。

この二つの岩屋こそ、江ノ島の龍神信仰の原点といえよう。岩屋への参籠は、日本の古代信仰の祈りの場への巡礼であった。

この二つの岩屋は、いにしえ人の祈りの場であり、江ノ島の龍神信仰が生まれた聖域でもあった。江ノ島詣で八雲たちの「江ノ島詣で」は、期せずして日本人の信仰の原点を訪ねる旅でもあった。

（早稲田大学名誉教授・鎌倉でらこや顧問）

作品募集「病からの伝言～光と闇の狭間写真展」

公募型写真展「病からの伝言～光と闇の狭間写真展」が5月13～15日鎌倉彫会館Gallery gで開かれる。病を患うママ友の高嶋ひさよ、中川まりの両名がその想いを発信することで励みにしようと企画。病に出会った人たちの心の葛藤を写真とメッセージで展示するにあたり、作品を募集している。

出展の対象は疾患・持病のある方、または家族。当事者を含む人物が写っている写真1枚のデータと150文字のメッセージ。出展料1800円（出展記念フォトブック付）。

申込はHPから https://yamaikaranodengon.com/ 4月17日締切。同事務局☎090・6976・0620

「病からの伝言」スタッフ

鎌倉朝日歌壇

木村 雅子 選

「戦争を止めてください」大荷物持ちウクライナの少女涙ぐ　逗子市　湊 美根子

戦争の悲惨が、現実が、迫ってくる歌。

沖晴れてほど良き風に干す若布家族総出の浜はにぎやか　横浜市　矢沢 寿美

「家族総出」に活気ある作業の様子が想像される。義経の伝説伝うる古寺の地蔵の頭のうすたかき雪　藤沢市　三浦 和子

地蔵の頭に積もる雪に義経の悲劇も促れてくる。

髪を梳かしお顔を拭いて仕舞う雛　半世紀越えやさしく笑まう　扇谷 鈴木 久子

手をつなぎお喋り止まぬ園児らは光の春の魁となる　葉山町　近藤美知子

麦の穂の先をゆるりと走りたる江ノ電いまは軒をかすめ　藤沢市　中村 喬

甘やかな香りが二重マスクにも紅梅観つつ山門潜る　城廻 塩田 文子

焼け落ちた観音食堂無惨なり多くのスマホに姿撮られて　大船　小笹岐美子

武士の駆けしこの道よたよと歩みてみたし鎌倉の寺を巡れば日も暮れゆけり　横浜市　桜井 真弓

侘助の一節竹に雅なり寒の最中のいっとき の味　津　石川 韶子

鎌倉朝日俳壇

星野 高士 選

〈天〉失ひし物は数へず冬の星　藤沢市　一色千穂子

作者の心持ちが素直に詠われている。

〈地〉波音を容れておほろの能舞台　横浜市　矢沢 寿美

おぼろは春の季語で夜の場面。能舞台の格式に自然の波音が入ったという幻想的な場面が見えてきた。

〈人〉雑木山木の芽ふくらむ匂ひかな　大船　添田 洋子

木の芽ふくらむ匂いは見えてはいないが、臨場感がわってきた。雑木山すべてが春を迎えたのである。

七里ヶ浜波も春も春めいて　藤沢市　槇野あさ子

固有名詞の七里ヶ浜は全国区。波のみなく、香りと表現し、広がりが生まれた。

扁額に年輪しみと建国日　城廻　塩田 文子

いかにも建国念日ときっと堂々とした古い扁額が掲げられていたのであろう。季題が的確であった。

指さきにふれるさざ波桜貝　山ノ内　高橋 仁

桜貝からの発想をうまく表していた一句。全体に無駄のないものになっていた。

ゆったりと生きて行きたし春の風　笛田 上田 満喜

春の水清く急いで何処へ行く　腰越 腰越 薫

短日の農事を畳む日暮れかな　手広 高口 道宏

評ひのあとに香れる梅の花　腰越 小河 哲美

梅林をくぐりて光る相模灘　今泉 小林力羊子

欧檜葉植えてせせらぎ戻りけり　植木 風見 玲子

水に差す揺れて重たき白椿　藤沢市 青木寿美子

七里ヶ浜波の香も春の日の　魚住 藤明

春の水清く急いで何処へ行く　藤沢市 中村 喬

短日の農事を畳む日暮れかな　逗子市 塩谷あい子

欧檜葉植えてせせらぎ戻りけり　藤沢市 和子

梅林をくぐりて光る相模灘　逗子市 三浦 和子

水に差す揺れて重たき白椿　大川 昭子

七里ヶ浜波の香も春の日の　腰越 大川 昭子

春の水清く急いで何処へ行く　逗子市 尾尾美智子

購入新図書のリスト抄

鎌倉市中央図書館（2月分）

鎌倉市中央図書館（☎25・2611）は2月に一般161冊、児童書17冊を収蔵した。一般的なものは下記の通り。

▼「京大芸人ノート－人生の悩みを解決する思考術」ロザン著　宝島社▼「ヒトの壁」養老孟司著　新潮社（新潮新書）▼「鎌倉幕府はなぜ滅びたのか」永井晋著　吉川弘文館（歴史文化ライブラリー）▼「鎌倉殿と13人の合議制」本郷和人著　河出書房新社（河出新書）▼「北条政子、義時の謀略－鎌倉幕府争乱期を読む」永井晋著　ベストブック（ベストセレクト）▼「経営のこころ－会社を伸ばすリーダーシップ」稲盛和夫述　稲盛ライブラリー編　PHP研究所▼「食卓の上の韓国史－おいしいメニューでたどる20世紀食文化史」周永河著　慶應義塾大学出版会

▼「不調が消え、免疫力アップ毎日の冷えとり漢方」川嶋朗著　河出書房新社▼「不眠症の9割は歩くだけで治る－歩いて、紫外線を浴びれば自然に眠れる」長尾和宏著　山と渓谷社▼「日常の絶景－知ってる街の、知らない見方」八馬智著　学芸出版社▼「時代のカナリア－今こそ女性たちに伝えたい！」瀧川れい子著　集英社▼「戦争と児童文学」繁内理恵著　みすず書房▼「それでも生きていく－不安社会を読み解く知のことば」姜尚中著　集英社

▼「キッチンから始める人生の整理術－今の自分をもっと快適に生きる」村上祥子著　青春出版社▼「おしゃべりな台所道具」土切敬子著　オレンジページ

終の棲み家を考える ㊺ 不動産～サブリース契約

「サブリース」というとお洒落でカッコよく聞こえていい事のように思えませんか。アパート等の賃貸物件の家賃保証の事です。

賃貸物件を造っても入居者が集まらなければ成り立たないことを解決するために賃貸物件の建築工事を受注していく仕組みです。

家賃保証をしてくれるので銀行融資を受けている場合など安心できる部分もありますが、賃貸事業として考えると、一番おいしい純利益の部分をリース業者に持っていかれています。借主と契約するのは大家ではなく、リース業者です。大家は低く抑えられた金額でリース契約するので当然利益が少なくなります。リース業者は礼金や更新料・管理費その他見えない部分でも利益を上げています。

数年前に全国的に問題を起こし話題になった○○パレスは最低の場合でも20％以上の粗利を出す仕組みをつくっていました。逆に見れば1つのリース契約で見える部分と見えない部分で20％以上の利益を家賃から出しているのです。入居者は